



にじいろ

松永さんに会いたい!

「2年前に車いすバスケットボールでお世話になった松永さんに会いたい!」という子どもたちの願いから、車いすバスケットボールチーム「長岡 JETS」で活躍されている松永哲一さんを講師にお迎えしました。松永さんの到着を心待ちにし、外にまで迎えに出た子どもたちがいきました。また、玄関で松永さんをお迎えし、車いすや荷物を自ら運んでくれた子どもたちもいました。

松永さんから、ご自身がなぜ車いすを使った生活を送っているのか、パラスポーツとは何か、などをお聞きしました。子どもたちは真剣に話を聞いたり、クイズで盛り上がり…。心に響く、貴重なお話をうかがいました。

次に、競技用の車いすの操作を教えてもらい、簡単なリレーを体験しました。終了時刻になり、「これで今日の授業は終わりです。」と松永さん。すると「え————! もっとやりたかった!」「学習参観でもやりたい!」「みゆき学習発表会でこのことを発表したい!」「運動会でもできるんじゃない?」と子どもたち。この学習の様子を参観していた校長先生に「運動会で車いすの競技をしてもいいですか?」と聞くと、校長先生が次のようにおっしゃいました。「**車いすは、体の不自由な方にとっての足です。だから、4年生がただ楽しいから、もっと車いすに乗りたいから、という理由では許可することは難しいです。まずは、学習の一環としてどうしたら車椅子を使った競技ができるのかをしっかりと考えて、計画を校長先生に提案してみてください。**」

松永さんとの出会いから、子どもたちは今後の学習課題を見付けました。そして、運動会での車いす競技の実現に向けて、校長先生から許可を得ようと気持ちを高めました!



その後、担任が「どうやって計画を作る？」と問いかけると、「う～ん、分からない。松永さんに相談したい！」と子どもたち。さっそくオンラインで相談しました。すると、日本財団パラスポーツサポートセンターという団体を紹介してもらいました。

伊吹さんとの出会いから…。

日本財団パラスポーツサポートセンターの伊吹祐輔さんを講師にお迎えし、共生社会を学ぶワークショップ型授業「あすチャレ！ジュニアアカデミー」を実施することができました。伊吹さんは、中学校で挫折を経験したこと、その後アメリカで車いすバスケットボールに没頭したこと、今もチャレンジを続けていることを教えてくださいました。

そして、どうしたら車いすをお使いの伊吹さんも子どもたちも誰もが楽しめる鬼ごっこができるか、そのルールを考えて実践する活動をしました。

【子どもたちが考えたルール】

- ・車いすのスピードに合わせて、子どもたちは走らずに早歩きで鬼ごっこをする。
- ・鬼が相手にタッチする時、ボールを投げてぶつけてもよい。
- ・使うエリアを狭くして、鬼が捕まえやすくする。

実際にやってみると、全員がルールを把握することが難しかったり、逃げる子どもたちは走らないと決めても走ってしまったりして、なかなかうまくいきませんでした。しかし、**工夫することで誰もが楽しむことができる、チャレンジすることが大事！**ということを知ることができました。

今後、この経験を活かして、運動会での車いす競技について考えていきます。明日、さっそく伊吹さんが再度来校され、練習をする予定です。

